

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 20 日

所属	政策情報学部	職名	教授	氏名	箕原辰夫
研究課題	情報表現に関する複合的な研究				
研究キーワード	情報学、文字学、数値計算、プログラミング教育	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	9.産業と技術革新の基盤をつくろう	4.質の高い教育をみんなに	10.人や国の不平等をなくそう	16.平和と公正をすべての人に	

1. 研究成果の概要

文字の字形の研究については、音節文字について紀要に研究ノートを連載しているが、2024 年度については、アラム文字・フェニキア文字からブラフミー文字についての影響の割合について記述された論文が海外の研究者によって提出されたので、その論文の評価と、コンピュータを使って類似具合を数値的に求めた結果を紀要に掲載した。

プログラミング教育については、2 件の発表を行なった。1つは、Mac でも誰も使わなくなっている AppleScript/Smile2 を使った数値解析のプログラミング教育について発表した。AppleScript は、未だに定型処理を記述できる強力なフレームワークと考えている。

2つ目は、本学の3年次のゼミナールの学生に対して行なった Dart/Flutter を使った GUI (Graphic User Interface) を持つアプリケーションのプログラミング教育について発表した。実際に行なってみてわかったのは、Flutter も SwiftUI と同様の宣言型の記述であり、言語だけを学んでも、GUI を記述するのは、言語とは異なるので、限られた授業回数では教育しにくいということである。そのため、2025 年度では、Python/Flet を使ったアプリケーション記述に置き換えることにした。

リアルタイム制御系での予測を伴う誘導表示系のシステムについては、発表はまだであるが、ドローンのカメラからのリアルタイムの映像による建物の境界認識をする取り組みのシステムの構築を行ないつつある。この実証実験を行なったものを、2025 年度の国際学会で発表する予定にしている。

2. 著書・論文・学会発表等

【著書・論文 (査読なし)】

音節文字の系譜(4) -ブラフミー文字の形成について-、箕原辰夫、単著、千葉商科大学紀要、第 62 巻 2 号、pp.105-120、2024 年 11 月

【学会発表等】

Dart を用いたプログラミング教育について、PC Conference 2024、CIEC (コンピュータ利用教育学会)、2024 年 8 月、東京都立大学、南大沢キャンパス

AppleScript/Smile2 による数値解析プログラミング教育について、PC Conference 2024、CIEC (コンピュータ利用教育学会)、2024 年 8 月、東京都立大学、南大沢キャンパス

3. 主な経費

航空宇宙関係の研究について、当初の計画通り、DJI mini 3 のドローンを購入し、2025 年度での発表に向けて準備をしている。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし

(本文は2ページ以内にまとめること)